

環境報告書 2015

株木建設株式会社



| | |
|---|----|
| 1. ご挨拶 | 1 |
| 2. 株木建設株式会社 行動憲章 | 1 |
| 3. 環境方針 | 2 |
| 4. 事業の概要 | 2 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 売上高・受注高の推移 ・ 2014年度 完成工事(事業別、官・民別)比率 | |
| 5. 環境目的・目標 | 3 |
| 6. 環境マネジメントシステムの状況 | 3 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ISO14001 認証取得状況 ・ 外部審査、内部環境監査実施状況 ・ 環境マネジメント組織と運用体制 | |
| 7. 環境汚染予防・環境保全活動の取組み | 4 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境パトロールの実施状況 ・ 工事検討会実施状況 ・ 施工体験発表大会 | |
| 8. コミュニケーション・社会貢献活動 | 5 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な取組み事例 | |
| 9. マテリアルフロー、環境パフォーマンス | 6 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 電力使用量、コピー用紙購入量 ・ CO2削減活動実施率、事務用品グリーン調達率 ・ 廃棄物排出量、リサイクル率 | |
| 10. 自然環境、住環境保全、地球温暖化防止の取組み | 7 |
| 11. グループ企業の環境の取組み | 8 |
| 12. 当社グループにおける環境負荷低減技術の開発・取組み | 9 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ バイオガス化処理システム | |
| 13. KCS(カブキ・コンストラクション・システム)改善活動 | 10 |
| 14. 環境報告書作成・発行 | 11 |

1. ご挨拶

人間の活動によって増加したCO₂をはじめとする温室効果ガスの影響で、地球温暖化がすすみ、気候変動により世界中で異常気象が多発しています。

日本でも社会基盤などハードだけでは防げない想定外の自然災害が発生し、多くの人々が被害にあわれています。我々は、低炭素社会へ向けた取組みを待たなして進めて行かなければなりません。

我が国は、地方の過疎化、高齢化、人口減少、インフラの老朽化、異常気象による自然災害など多くの問題や課題が山積みです。

また、今後予想される首都直下や東海・東南海・南海などの巨大地震などの発生に備えた防災・減災対策の重要性が増し、それに対応すべく国土強靱化が進められているところです。

当社は建設業者として、これらの要求に応えられるよう日々研鑽し、人々の安全・安心の確保に貢献出来るよう精進するとともに、発生時には速やかな復旧に協力できる体制を整えてまいります。

我が国は、環境負荷が少ない再生可能エネルギーへのシフトが進んでいますが、まだ十分ではありません。これまでの経済社会システムやライフスタイルの在り方をもう一度見直し、資源やエネルギーの循環型社会の形成を目指して、適正消費、最少廃棄物の社会へ転換していく必要があります。

当社は環境に配慮した施工を標榜し、「TPS(トヨタ生産方式)」を学び、建設業にアレンジした独自の「KCS(カブキ・コンストラクション・システム)改善活動」を推進しています。

この活動は、環境負荷低減やより品質の高い施工等に社員一人一人が自主的に知恵を絞る工夫を加え、改善活動を継続的に実施

していく取り組みで、施工と自然を調和させ、かけがえのない地球環境を次世代に受け渡していく一助となると確信しています。

さらに、当社を中核としたグループ企業の取組みの大きな柱として、バイオマスプラントにより、地域で発生した食品廃棄物をバイオマス資源として循環(食品廃棄物をメタン発酵させバイオガスを回収し、隣接エコプラントの燃料として使用し、同時に堆肥を生産)を推進しています。

これからも、未来に向け「循環型社会構築」を目指し、地域社会の環境保全に貢献し『環境の環』を広げ、人々の生活を支えるグループ企業でありたいと考えています。



2016年4月

代表取締役社長 株 木 雅 浩

2. 株木建設株式会社 行動憲章

1. 建設にかかわる広範なニーズに、技術開発、良質で安全な企画・設計・施工で対応して顧客満足を得、そして社会資本整備に貢献する。
2. 公正、透明、自由な競争を行う。また、政治、行政、発注機関、取引先等とは健全かつ公正な関係を保つ。
3. 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
4. 環境問題への取り組みは企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、環境の改善と向上にむけ自主的、積極的に行動する。
5. 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
6. 社員の人格、個性を尊重し、安全で快適な職場環境づくりを行う。
7. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、不当、不法な要求は一切拒否する。
8. 確固たるコーポレートガバナンスのもと健全、堅実な経営を行う。
9. 役員は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識しつつ率先垂範の上、関係者に周知徹底する。
10. 本憲章に反するような事態が発生したときには、役員自らが問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努める。また関係者の権限と責任を明確化し、自らを含めて厳正な処分を行う。

2005年12月制定

3. 品質・環境方針

【品質方針】

卓越した技術と施工により、お客様の要求・期待に応える確かな品質の構築物を提供し、厚い信頼と満足を得る。

1. 迅速で適切な顧客対応を行う。
2. 技術、能力の向上に励む。
3. 経営の質を改善し、顧客満足の向上を目指す。

【環境方針】

環境に配慮した「良い製品」造りと活動を通じて、地球環境の保全と地域環境への貢献を目指して活動する。

1. 設計・施工・オフィスの各活動を通じて、環境負荷を低減する。
2. 事業活動による環境汚染の予防に努める。
3. 実行可能なことから環境保全に取り組む。

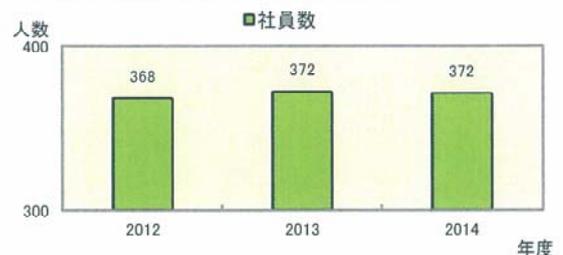
【コミットメント】

1. 品質・環境マネジメントシステムの有効性を継続的に改善します。
 2. 顧客要求事項、関連する法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
- 以上、方針達成のために、活動の目的・目標を定め、計画を作成し展開します。

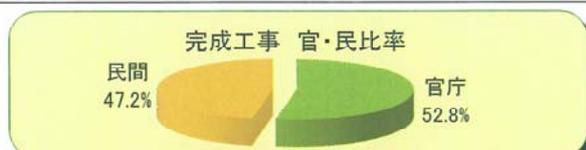
2008年6月制定

| | | | | | |
|------------|----------------------|-------|----------|---------------------|--------------|
| 社名 | 株木建設株式会社 | 本店 | 310-0845 | 茨城県水戸市吉沢町311-1 | 029-248-0688 |
| 沿革 | 創業 1921年4月 | 東京本社 | 171-8560 | 東京都豊島区高田3-31-5 | 03-3984-4111 |
| 資本金 | 27億円 | | | | |
| 従業員 | 人数 372名(2015.5.31現在) | 茨城本店 | 310-0845 | 茨城県水戸市吉沢町311-1 | 029-248-0222 |
| 建設業許可 | 大匠許可(特-23)第3号 | 東京本店 | 171-8561 | 東京都豊島区高田3-31-5 | 03-3984-4120 |
| 宅地建物取引業者免許 | 茨城県知事(3)6305号 | 札幌支店 | 060-0033 | 北海道札幌市中央区北一条東1-4-1 | 011-221-5084 |
| 業態 | 総合建設業 | 名古屋支店 | 460-0008 | 愛知県名古屋市中区栄4-7-10 | 052-249-5685 |
| 主な事業内容 | 土木・建築ならびに関連業務 | 大阪支店 | 531-0072 | 大阪府大阪市北区豊崎5-8-17 | 06-6372-5951 |
| 事業年度 | 5月決算 | 九州支店 | 815-0082 | 福岡県福岡市博多区博多駅南4-2-10 | 092-414-1555 |

4. 事業の概要



2014年度 完成工事 事業別(建築、土木)・官民別(官庁、民間)



5. 環境目的・目標

| 2014年度 全社環境目的・目標・実績 | | | | | |
|---------------------|---|--|--|----------------------------|----|
| 区分 | 目的 | 目標 | 実績 | 評価 | |
| 施工 | 工事施工における「ムダを無くす」ことの「ムダ」を定義し、ムダを発生することなく環境改善に繋げる | ①施工不良による手直し、手戻り発生防止 ②環境事故防止のための予防処置を講ずる ※上記における防止・予防処置を1項目以上立案 | ①②合わせた目標値(20項目/1工事)に対する平均値(達成率) 土木: (194項目/1工事)=97% 建築: (209項目/1工事)=105% | ○ | |
| 設計 | 省エネ設計・技法の充実を図り、顧客提案力を向上する | 省エネ設計、製品の不具合情報、新たな有効情報を収集分析し、設計提案リストを25%以上増やす | 102/394=25.9% > 25% =104% | ○ | |
| オフィス | 事務用品のグリーン調達率を向上する オフィス周辺の環境美化を推進する | 事務用品のグリーン調達率92.5%、環境美化の推進(ゴミ削減4S:整理・整頓・清潔・清掃)92.5%以上 | グリーン調達率 94.4% 環境美化率 94.3% | ○ | |
| 2014年度 本社部署目標・実績 | | | | | |
| 区分 | 目標 | 管理項目 | 目標値 | 実績 | 評価 |
| 土木本部 | 施工段階におけるCO2の削減 | 施工時CO2削減活動実施率調査シートによるチェック | 活動実施率 80% | 活動実施率 87.5% | ○ |
| 建築本部 | 施工段階におけるCO2の削減 | 施工時CO2削減活動実施率調査シートによるチェック | 活動実施率 85% | 活動実施率 85.2% | ○ |
| 設計部 | 工事検討会時、作業所の環境改善事例、予防処置、技術情報を提供し支援を行う | 工事検討会にて支援実施 | 支援提案3件以上/工事検討会 | 支援提案21件/ 工事検討会7件=21件=3件 | ○ |
| 営業本部 | 環境関連工事への入札・見積参加 | 継続のためのデータ収集 | 年間15回以上の参加 | 75回参加 > 30回 | ○ |
| 管理本部 | 職員の環境意識向上 | 個別環境活動の実施 | 環境活動実施率 90%以上 | 実施率 68/73=93.2% > 90% | ○ |

6. 環境マネジメントシステムの状況

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--------|--------|-------|------------|-------|------------|------|------------|------|------------|-------------------------------|
| <p>【認証取得状況】</p> <p>環境マネジメントシステムを全社一括で、2005年10月に認証取得し、2013年9月に第3回再認証審査を実施しました。</p> | <table border="1"> <tr> <td>審査登録機関</td> <td>MSA</td> </tr> <tr> <td>認証取得日</td> <td>2005/10/20</td> </tr> <tr> <td>更新日</td> <td>2013/10/28</td> </tr> <tr> <td>有効期限</td> <td>2016/11/23</td> </tr> <tr> <td>登録番号</td> <td>MSA-ES-476</td> </tr> </table> | 審査登録機関 | MSA | 認証取得日 | 2005/10/20 | 更新日 | 2013/10/28 | 有効期限 | 2016/11/23 | 登録番号 | MSA-ES-476 | <p>環境マネジメント組織と運用体制</p> |
| 審査登録機関 | MSA | | | | | | | | | | | |
| 認証取得日 | 2005/10/20 | | | | | | | | | | | |
| 更新日 | 2013/10/28 | | | | | | | | | | | |
| 有効期限 | 2016/11/23 | | | | | | | | | | | |
| 登録番号 | MSA-ES-476 | | | | | | | | | | | |
| <p>【外部審査】</p> <p>2015年9月に審査登録機関(株)マネジメントシステム評価センターによる第3-2回サーベイランス審査を受審しました。審査結果は、是正要求はなく、改善の機会1件、観察事項1件となりました。</p> | <table border="1"> <tr> <td>項目</td> <td>2014年度</td> </tr> <tr> <td>改善指摘</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>改善の機会</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>観察事項</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>充実点</td> <td>2件</td> </tr> </table> | 項目 | 2014年度 | 改善指摘 | 0件 | 改善の機会 | 1件 | 観察事項 | 1件 | 充実点 | 2件 | |
| 項目 | 2014年度 | | | | | | | | | | | |
| 改善指摘 | 0件 | | | | | | | | | | | |
| 改善の機会 | 1件 | | | | | | | | | | | |
| 観察事項 | 1件 | | | | | | | | | | | |
| 充実点 | 2件 | | | | | | | | | | | |
| <p>【内部環境監査】</p> <p>環境マネジメントシステムの運用状況を把握し、継続的に改善をはかるため、常設部署及び作業所の内部環境監査を実施しています。</p> <p>2014年度は、常設部署の定期監査を2回実施(23部署)し、作業所内部監査は安全パトロール時に同時に実施することとし、11作業所に対し実施し、指摘事項はありませんでした。</p> | | | | | | | | | | | | |

7. 環境汚染予防・環境保全活動の取組み

地球環境の保全と地域環境への貢献を目指して活動することとした環境方針を受け、工事施工を進める上で、法的及びその他の要求事項等を順守して施工を行っているが安全衛生環境パトロールの実施や一定規模以上の工事に対して、その工事特性・周辺環境に配慮した環境汚染予防・環境保全活動に対する事前工事検討会の実施、更に環境に配慮した創意工夫、活用技術事例の施工体験発表大会を開催し、技術・経験の共有化を図るなど環境汚染予防・環境保全活動の様々な取組みを行っています。

【環境パトロール実施】

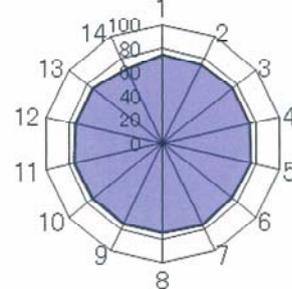
工事施工部署は、法的及びその他の要求事項等を順守し社会的責任を果たすため、各作業所に対して安全衛生環境パトロールを実施し改善を図っています。

作業所は、工事開始前に、法的及びその他の要求事項を間違いなく順守するよう計画し、チェックを実施しながら活動しています。

2014年度は、チェック結果及び事象から評価して、法的及びその他の要求事項を順守していると判断しています。（点検項目）

| | | |
|-------------|--------------|------------------|
| 1.緊急事態の対応準備 | 6.路面維持・排水状態 | 11.大気汚染、騒音・振動 |
| 2.環境一般 | 7.埋設物・空中線管理 | 12.土壌・地下水汚染 |
| 3.環境側面 | 8.建設・副産物管理 | 13.地盤沈下 |
| 4.法規制順守 | 9.近隣の苦情、要望事項 | 14.有機溶剤・特化物の使用保管 |
| 5.交通対策の措置 | 10.飛散、粉塵 | |

環境パトロール項目別評価点



2014年度実施回数

175回

法遵守結果

指摘35/総点検1659=2.1%

【工事検討会実施状況】

現業本部では、一定規模以上(5億円)の工事や特異性のある工事について、その工事特性に応じた適切な施工が出来る様、社長をはじめ工事経験者や設計・技術部門の担当者等を交えて、工事検討会を実施し、環境の他、施工、品質、安全衛生とあらゆる角度から知恵を出しあい、予防処置を検討し改善をはかっています。

また、各地区においても、本部工事検討会の対象外工事についても、同様に検討会を実施しています。

◆本部工事検討会実施回数◆

| 工事区分 | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 建築工事 | 6件 | 5件 | 4件 | 11件 | 9件 |
| 土木工事 | 1件 | 2件 | 4件 | 14件 | 11件 |
| 合計 | 7件 | 7件 | 8件 | 25件 | 20件 |



【施工体験発表大会】

当社では、2年に一度、完成工事の中から優れた施工を選定し、施工体験発表大会を開催しています。

これは、全社員が現場で活用された技術や経験を共有化すると共に、各人のプレゼンテーション能力向上を目指しているものです。

平成27年度回施工体験発表大会では、それぞれの異なる施工において活用した技術、創意工夫、環境配慮の事例等に関する体験情報が、参加者全員に伝えられました。



・平成27年度施工体験発表大会(2015.11.21)

8. コミュニケーション・社会貢献活動

【現場の取組み】

建設工事の円滑な施工には地域社会の理解と協力が必要です。株木建設は地域とのコミュニケーションの重要性を深く認識し、地域社会へ情報発信を積極的に行うことによって、お互いの理解を深めることができると考えています。

市民マラソン大会への協賛や現場見学会、様々なイベント等を企画し、地域・地元との交流を通じて、コミュニケーションの推進や地域貢献に努めています。又、自然災害による災害復旧支援、その他ボランティア活動、自然環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

【様々な取組事例】

【現場見学会】

建築の体育館工事や土木の橋梁工事、下水道工事など様々な機会を捉え、地元小学生、住民、外国人旅行者(韓国下水道局職員)等を対象に現場見学会を開催し、工事への理解とコミュニケーションの推進に努めています。



・体育館工事の現場見学会(地元小学生)



・橋梁上部工事の現場見学会(地元小学生)



・下水道工事外国人技術者の現場見学

【協賛市民マラソン大会への参加】

水戸市のPRと地元経済の活性化を目的に水戸商工会議所青年部などが主催する千波湖畔を駆け抜ける「水戸マラソン」大会に協賛し、当社から多くの社員が参加しています。



・参加者



・マラソン風景

【被災地災害復旧支援】

鬼怒川氾濫によって甚大な被害を受けた当社施工の常総市庁舎の災害復旧に向けた支援活動を行いました。



・常総市役所災害復旧支援活動

【地域の環境保全活動】

各地域において地元土地改良区や国交省地方整備局等が主催・後援する環境保全活動に参加しています。



・熊本県阿蘇市「水土里ネットの森」
下草狩り



・愛知県鬼崎海岸清掃活動

【事業所個別のボランティア活動】

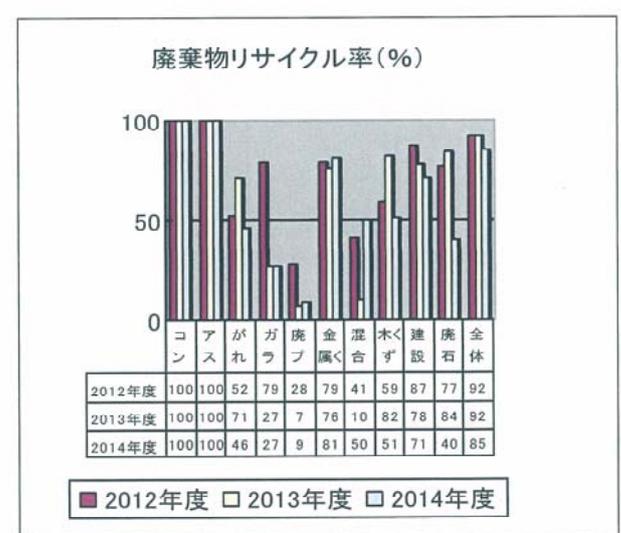
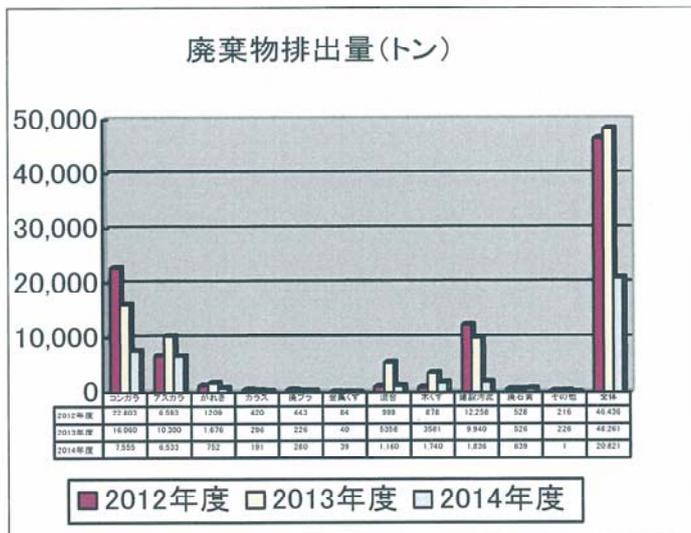
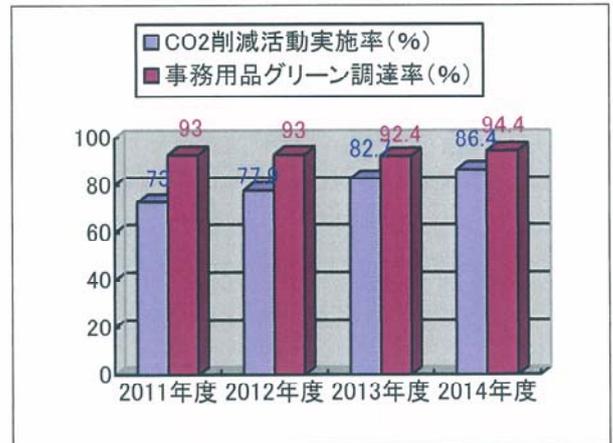
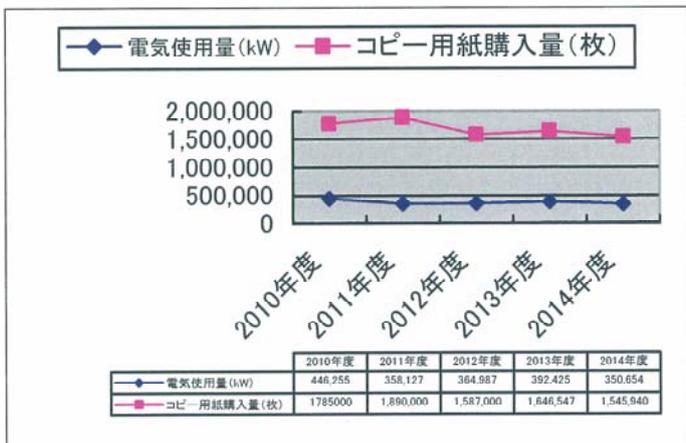
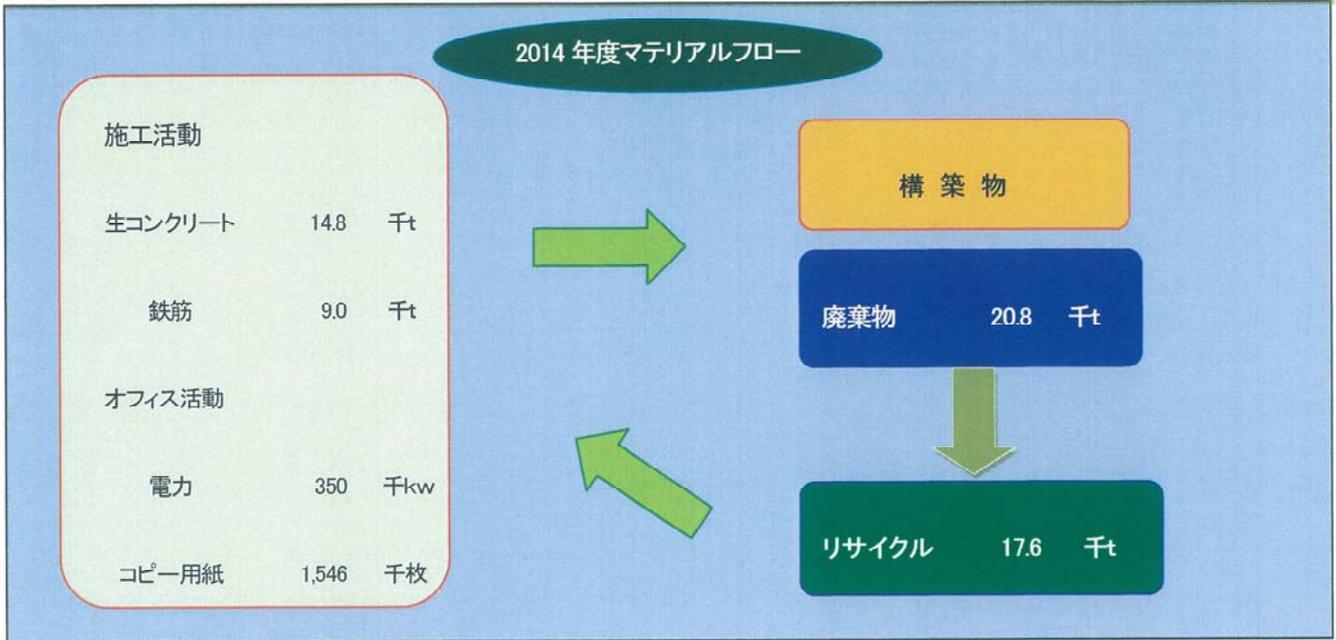
茨城本店では水戸市の桜川河川敷清掃活動を年間3回(土曜日)のペースで継続して実施しています。

(H6.8.6～継続中 延70回 延社員参加者2,143名)



・河川敷の清掃活動

9. マテリアルフロー2014年度、環境パフォーマンス



10. 自然環境、住環境保全、地球温暖化防止の取組み

【河川への汚濁に配慮した施工】
 橋梁耐震補強工事に伴う橋脚の断面修復施工時のコンクリート殻や断面修復・ひび割れ補修時のモルタル及びエポキシ樹脂等汚濁物質の拡散防止対策として各橋脚にシルトフェンスを設置し施工しています。



・コンクリート殻落下防止



・シルトフェンス設置

【周辺への粉塵飛散に配慮した施工】
 市街地での施工や湖畔近くでの施工でコブハクチョウ、コクチョウ等の水鳥がいる環境の中で現場周辺の状況・生態系の維持から粉塵発生に対する飛散防止措置を図り施工しています。



フロント外部への防塵対策



・市街地での防塵対策



・湖畔での防塵対策

【日本野鳥の会の活動をサポート】
 当社は、長年にわたり法人特別会員として日本野鳥の会の活動をサポートしており、公益財団法人日本野鳥の会が発行した小冊子“ヒナとの関わり方がわかるハンドブック”に応援企業として当社名が掲載されています。



【地球温暖化防止活動】
 施工に使用する発電機・建設用重機や運搬車両からの排気ガスを抑制するための啓蒙活動や全作業所を対象に施工におけるCO2削減活動に取り組んでいます。
 ◆実施事項◆
 ・「ストップ・ザ・CO2 横断幕」「絵で見る省燃費運転マニュアル」等を作業所へ配付しています。 発行：(一社)日本建設業団体連合
 ・「アイドリングストップ運動シール」を作成し、作業所へ配布を行い各重機、運搬車輛へ貼付、掲示等を行っています。
 ・日建連が主催するCO2削減活動に倣って全作業所を対象に施工におけるCO2削減活動を環境目標に掲げ、展開しています。

【啓蒙活動】
 「ストップ・ザ・CO2横断幕」「アイドリングストップステッカー」を配布し、CO2削減活動を積極的に推進しています。

【具体的な取組】
 当社の啓蒙ステッカーを重機・ダンプに貼付して、省燃費運転を励行したり、ソーラー式回転灯を使用することでCO2の削減に努めています。



・ストップ・ザ・CO2 横断幕



・当社作成 CO2 削減啓蒙ステッカー



・重機・散水車等に貼付された CO2 削減啓蒙ステッカー



・ソーラー式回転灯

11. グループ企業の環境への取り組み

今、「地球環境問題」が大きくクローズアップされている中、株木建設を中核としたグループ企業では様々な環境負荷低減技術の開発に取り組んで事業を展開しています。

当社における水資源・土壌汚染対策、地球温暖化防止対策を始めとし、グループ企業においても廃棄物の再利用、廃棄物の発生抑制と再生資源の効率的な利用、廃棄物の適正な処理および処分のための中間処理施設、管理型処分場の運用を行い「循環型社会」を目指し、地域社会の環境保全に貢献しながら、人々の生活を支えるグループ企業でありたいと常に考えております。

環境保全活動、環境配慮活動を推進します。

- ① 地球温暖化対策 ② 再資源化対策 ③ 有害物質・化学物質対策
④ 循環型社会形成の推進 ⑤ 環境配慮設計の推進 ⑥ 環境保全技術活用の促進



12. グループにおける環境負荷低減技術の開発・取組み例

国内初の「焼却施設・バイオガス化処理のハイブリット型総合リサイクルセンター」 日立セメント株式会社 神立資源リサイクルセンター バイオプラント稼働

神立資源リサイクルセンターバイオプラントは、地元の家庭系生ごみや食品廃棄物系のバイオマス資源をメタン発酵・発酵堆肥化によりバイオガスエネルギーと堆肥にリサイクルする施設で、平成24年3月26日に竣工し、7月から本格稼働しています。

既設エコプラントと連携して、バイオガス・熱エネルギーの効率的利用が図れ、尚且つ食の循環に寄与する食品リサイクル法に対応した施設です。

神立資源リサイクルセンターバイオプラントは、「土浦市バイオマスタウン構想」の中核施設として、以下に資すべく、整備いたしました。

- ①循環型社会形成への寄与
生ゴミ・食品廃棄物の分別リサイクル
- ②地球温暖化防止への寄与
バイオマスを化石燃料の代替とすることによるCO2の削減
- ③農業活性化への寄与
生産堆肥の農地還元による有機農業の普及拡大、食の循環の推進
- ④社会資本整備に係る行政コスト削減への寄与
焼却ごみが減ることによる土浦市清掃センターの負荷軽減、最終処分場の延命化
- ⑤新しいバイオマス活用技術の実証、普及への寄与
焼却・バイオマス化の融合（ハイブリット化）による効率的なバイオマスエネルギーの利用



神立資源リサイクルセンター全体図



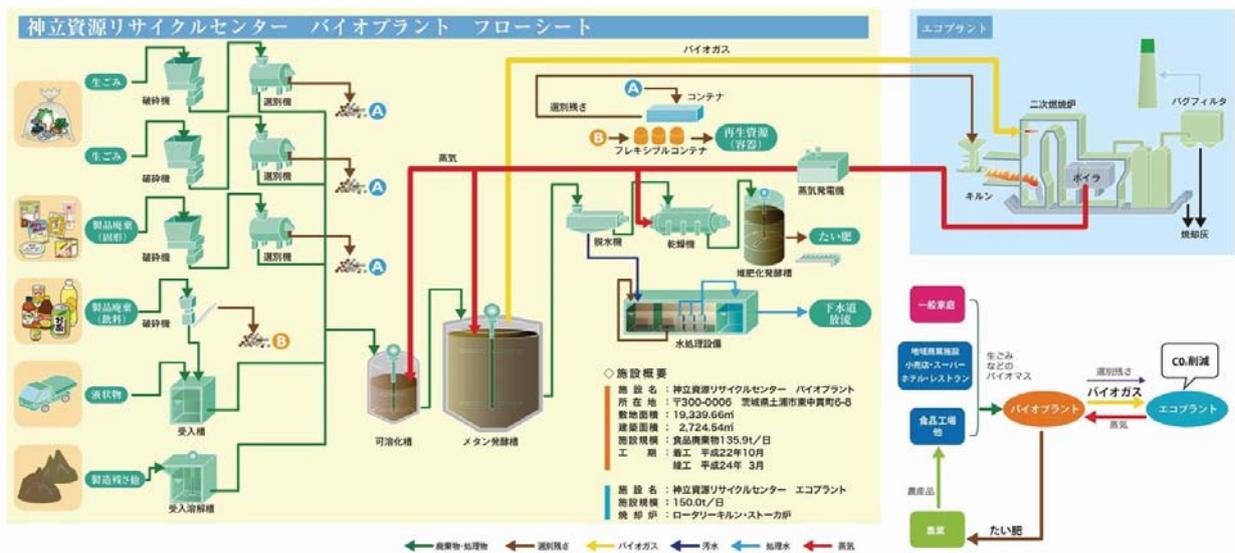
バイオプラント

生物のちから…自然の循環メカニズムに倣ったリサイクルです

バイオプラントのリサイクルは、大きく分けて「嫌気発酵(メタン発酵)」および「好気発酵(堆肥化発酵)」の二つの生物処理(発酵)により行われます。

メタン発酵では、有機物がメタン発酵により無酸素下で分解され、その際、バイオ燃料であるバイオガス(メタンガス)が生み出されます。このバイオガスを重油代替として利用することで、化石燃料の使用量削減を図ります。

堆肥化発酵では、有機物が多数の微生物群により有酸素下で分解され、有機堆肥を作ることができます。メタン発酵を終えた残さには、多くの肥料要素が残っているため、「バイオ燃料」のみならず「有機堆肥」にまで、バイオマス資源を余すところなく活用することができます。有数農業生産地域でもある地元茨城県で農地還元が可能となり、地域での食の循環を推進するものともなります。



13. KCS(カブキ・コンストラクション・システム)改善活動

【KCS改善活動を展開】

◆当社においては、「工程・原価・品質・安全・環境」に関する不適合事例を改善すべく会社内で同じミスを2度と繰り返さないよう、また、トラブルや問題を現場だけで抱え込まないように、マネジメントシステムの中にいくつかの仕掛けを取入れて実施しています。その中の主要な一つが『KCS(カブキ・コンストラクション・システム)』です。

◆KCS(カブキ・コンストラクションシステム)について
弊社は、建設業では初めて「トヨタ生産方式(TPS)」による「改善活動」のキックオフを2008年に行い、モデル現場において試行錯誤を繰り返しながら、建設業に適合させた独自の『KCS(カブキ・コンストラクション・システム)』へ変換し、全社へ展開して自社の独自性を発揮すべく鋭意活動を展開しています。

【弊社が目指しているKCS改善活動】

目指すもの1
発注者からの必要な情報が会社内の営業・設計・現業・管理にもれなく流れて共有される事。

目指すもの2
現場の所長・協力業者・作業員が誰でも、「後工程はお客様」、つまり、後の工程に不具合をまわさないという「TPS」の思想を理解して、その結果、発注者に信頼を得られる優れた施工が出来るようにする事。

目指すもの1への取組
全社的(営業・設計・現業・管理)な情報共有化



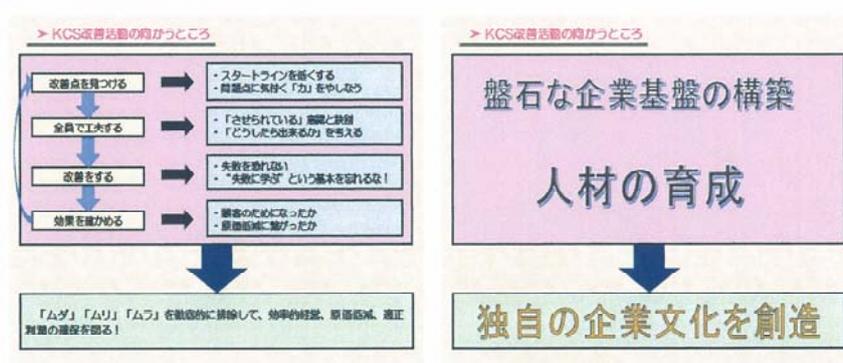
目指すもの2への取組
作業所(職員・協力業者)の情報共有化

1. 安全の見える化
2. 品質の見える化
3. 工程の見える化

【KCS改善活動をさらに一歩前へ】

過去事例も含め、皆が活動に参加し、見える化手法を上手に取り入れ、情報の共有化を図り、改善の効果が、数値などを用いることでより評価しやすい取組みを構築し、KCS改善活動をさらに一歩前へ押し進めています。

【KCS改善活動の向かうところ】



【後工程への思いやり運動ポスター化】



【社内全体で知識・技術の共有化】

KCS 改善活動を積極的に推進し、発注者の評価につなげ優秀な成績で竣工した土木・建築の作業所の活動事例を施工体験発表大会、フォロー会の開催やイントラネットに掲載し情報の共有化を図っています。



・施工体験発表大会



・フォロー会の開催

14. 環境報告書作成・発行

| | |
|--------------|---|
| 対象組織 | 株木建設株式会社 |
| 対象期間 | 2014年度(一部2015年度活動含む) |
| 主な加盟している業界団体 | (一社)日本建設業連合会 (一社)日本埋立浚渫協会 |
| 作成部署 | 安全品質環境管理室 |
| お問合せ先 | 東京本社 安全品質環境管理室 TEL:03-3984-4150 FAX:03-3984-6900 Mail:webmaster@kabuki.co.jp |



株木建設株式会社

<http://www.kabuki.co.jp/>



2016年 4月発行